

大阪府警察からの最近の身元確認協力要請事案について の報告

溝畑 正信

Examination of the latest body identification cooperation request case from the Osaka police

Masanobu MIZOHATA

目 次

1. はじめに
2. 平成20年4月より平成25年3月までの臨場要請案件
3. 文献

キーワード：警察の協力要請、個人識別、歯科的所見

要 旨

大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室に対する大阪府警察からの歯科的所見による身元確認要請は、以前は犯罪性のある事件の要請もあったが、最近では犯罪性のないと思われる変死事件の要請が殆んどすべてである。これは、いわゆる犯罪性のある事件は、大学医学部法医学教室で司法解剖が行われ、その際に身元確認作業も同時に実施されるためと考えられる。

近年、歯科的所見による身元確認要請が非常に多くなってきている。これは身元確認に歯科の重要性が認識されてきた証しであろう。 1), 2), 3), 4), 5), 6), 7), 8), 9)

最近の変死事件の要請の死体の状態は、高度腐敗がほとんどで、指紋や顔貌からは身元確認できないというものが多い。近年夏場は非常に温度が高く、死亡者は極めて早期に腐敗が進行し、指紋や顔貌による識別が困難になって、歯牙による個人識別が重要視されるものと考えられる。

変死事件の身元確認率は、以前はそう高くなかったが、最近では殆んど100%である。これは、警察が捜査によって生前の治療歯科医を探し得た時に臨場協力要請してきているものが多いと考えられる。実際には変死体数はもっと多く、身元不明死体として取り扱われているものが多いと考えられる。

変死事件の死体発見場所は居室内が多数であった。月別では6, 7, 8月が多く、年齢別では

60代、70代、50代が多数であった。

独居で、夏場の腐敗が進行しやすい時期、そして高齢者が多かった。社会的な問題として、独居者に対しての行政等によるケアが必要と考える。

1. はじめに

著者の所属する大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室は、平成4年7月に発足して以来、警察からの身元確認協力要請に応じて今日に至っている。以前は、犯罪性のある死体の身元確認協力要請も比較的多くあったが、最近は、犯罪性のないと思われる変死体がほとんどである。今回、最近の5年間の身元確認協力要請事案の検討を行ったので報告する。

2. 平成20年4月より平成25年3月までの臨場要請案件

平成20年4月より平成25年3月までの臨場要請案件を見ると、平成20年度（平成20年4月～平成21年3月）では28件の依頼があり、内訳は、変死事件21件（男15、女6）、殺人・死体遺棄事件の犯罪性のある事件2件（男2）、焼死事件2件（男1、女1）、溺死事件1件（男1）、その他2件（男1、不明1）であった。平成21年度（平成21年4月～平成22年3月）では36件で、変死事件32件（男18、女14）、焼死事件2件（男2）、溺死事件1件（女1）、轢死事件1件（女1）、平成22年度（平成22年4月～23年3月）では44件で、変死事件39件（男28、女11）、死体遺棄4件（男1、女3）、轢死事件1件（女1）、平成23年度（平成23年4月～24年3月）では56件で、変死事件54件（男40、女14）、焼死事件1件（女1）、溺死事件1件（女1）、平成24年度（平成24年4月～25年3月）では72件で、すべて変死事件（男52、女20）であった。

5年間の身元確認協力要請は全236件で、男性161件（68.2%）、女性74件（31.4%）、不明1件（0.4%）であった。

236件の内訳は、変死218件（男153=70.2%、女65=29.8%）、殺人・死体遺棄6件（男3=50.0%、女3=50.0%）、焼死5件（男3、女2）、溺死3件（男1、女2）、轢死事件2件（女2）、その他2件（男1、不明1）であった。

変死事件での身元確認率は、平成20年度95.2%、21年度96.9%、22年度100%、23年度100%、24年度100%と、ここ最近は100%であった。

また、変死事件の遺体発見場所は218件中、居室内が192件で88.1%、居室外が26件、11.9%であった。

これら5年間の要請を月別にまとめると、全236件中、6月に42件（17.8%）、7月に35件（14.8%）、8月に35件（14.8%）と、夏場に集中して多く、次いで5月18件（7.6%）、4月16件（6.8%）であった。

年齢別にみると、全236件中、60～69歳が最も多く62件（26.3%）、次いで70～79歳で57件（24.2%）、50～59歳で47件（19.9%）、40～49歳22件（9.3%）、80～89歳21件（8.9%）であった。

3. 文献

1. 溝畑正信・中西正尚：「大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室の取り組み」、日本法歯科医学会雑誌、第1巻・第1号：55-58、2008.
2. 溝畑正信：「ミイラ化死体の歯からの個人識別」、大阪経済法科大学地域総合研究所紀要 創刊号、161-170、2008.
3. 溝畑正信・緒方惟幸・篠田修：「火葬された歯牙からの個人識別2例」、大阪経済法科大学 科学技術研究所紀要、11、19-27、2006.
4. 溝畑正信：「白骨死体の歯からの個人識別4例」、国際歯科学士会日本部会誌、39、104-114、2008.
5. 溝畑正信・赤根賢治・岡本学：「焼死体の臨場協力要請例一歯からの個人識別」、日本法歯科医学会誌、第3巻・第1号：47、2010.
6. 溝畑正信・赤根賢治・岡本学：「歯科的所見による身元確認の中での代表的な事例」、日本法歯科医学会誌、第4巻・第1号：46-72、2011.
7. 溝畑正信・赤根賢治・瀬古口精良：「幼児虐待死の3例」、日本法歯科医学会誌、第5巻・第1号：64-65、2012.
8. 瀬古口精良・赤根賢治・溝畑正信：「過去10年間における身元確認協力要請事例の検討」、日本法歯科医学会誌、第6巻・第1号：74-75、2013.
9. 溝畑正信：「大規模災害発生時における身元不明犠牲者の歯からの個人識別」、大阪経済法科大学 地域総合研究所紀要 第3号、253-259、2010.